

実証結果の表示について

1. 実証結果の表示に関する現状と課題

1.1. ロゴマークの交付及び実証結果の公表について（現状の仕組み）

- 環境技術実証事業で実証を行った技術には、実証事業ロゴマークを交付
- 実証結果については交付される番号をもとにホームページで表示

1.2. 現状及び課題

1) 現状におけるロゴマークの意義

- 技術そのものの普及を促す段階では、実証した技術すべてにロゴマークを交付するのは意義がある。

2) 課題

- 技術の普及が進んでいる段階では、実証結果の善し悪しにかかわらずロゴマークが交付されていることは、実証結果の悪い技術、製品にもロゴマークが交付されるためユーザーに誤解を与える恐れがある。
- また、優れた環境技術を持つ技術開発者から実証結果にかかわらずロゴマークが交付されることに不満が出る懸念がある。
- さらに、実証結果の表示によりトップクラスの性能を持つ製品・技術を評価することができれば、技術開発を促進する効果が期待できる。

2. 実証結果表示についての提案（環境技術実証事業検討会の了解を得る必要あり）

- 技術が確立し普及しつつあり、かつ評価基準の知見が蓄積しつつある分野では、ロゴマークに実証結果を表示する。
- クリアすべき課題（実証項目の検討段階で議論を終えていることが望ましい）
 - 横並びの比較が可能であること：このためには同一の条件で測定する必要がある。
 - 何を実証結果として表示するか：1世代前との消費電力削減率 or 消費電力量 or 両方の組み合わせ

（案）

- ※ 効果の有無は1世代前からの削減率で評価
- ※ 特に優秀な製品の差別化は消費電力量・電力効率で行う
- 性能結果を表示する際は、実証年度も併せて表示することが適切。